

B—50 青インキのしみ抜き試験(第1報)
—使用薬剤の作用効果について—

武庫川女大家政 ○大窪 侯子
樺井 博

布地についた青インキしみを次亜塩素酸ナトリウムと
蓼酸、及びアンモニア水と蓼酸の2種の二浴式洗浄法で
しみ抜きする場合の使用薬剤の作用効果を測色的に調べ
てみた。その結果、つぎの傾向を認めた。

1) 次亜塩素酸ナトリウムによる汚染色の消去(洗浄布
の原白布への明度的彩度的近接)と蓼酸による消去の促
進

2) アンモニア水による汚染色(暗青色)の灰色化(彩度
低下)と蓼酸による灰色化の解消(青色の復活—彩度上
昇)

なお、これらの薬剤の作用とは無関係に

3) よごれ自体の水溶性にもとづく汚染色の淡色化
の傾向も認められたことはいうまでもない。なお、使用
薬剤の濃度効果としては、布地によって異なるが、1回の
二浴処理において綿布の汚染色が白色化する最低濃度は
NaClO に限って認められ、0.03~0.10% の範囲であつ
た。NH₃ 水と蓼酸の二浴処理では NH₃ 水の濃度が濃い
ほど汚染色の淡色化の傾向を認めたが、最大濃度 22%
としてもなお原白布なみの白さにすることができなかつ
た。従つてこの場合のしみ抜き法としては反復洗浄効果
の吟味が残された試験課題となる。